

Revision of the Genus *Apristurus* around Japan—Recent advance

植木 睦・仲谷 一宏 (北大・院水産)

Mutsumi UEKI and Kazuhiro NAKAYA

(Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido Univ.)

ヘラザメ属はメジロザメ目トラザメ科に属し、両極域を除くほぼ全世界の大陸斜面、海山列、海盆などの水深約 500–2000 m の海底付近に分布する深海性の小型のサメである。本属魚類は、体が柔軟なこと、吻が扁平であること、臀鰭基底が長く基底後端が尾鰭下葉にほぼ接すること、尾鰭上葉に独立した肥大鱗列をもたないことなどにより特徴付けられる。しかし、属内の種間の分類形質に乏しい上に、数多くの未記載種の存在が示唆されており、その分類は混乱した状態にある。本研究で日本産のヘラザメについて新たな知見が得られたので報告する。

日本産ヘラザメ属は従来 6 種 (*Apristurus fedorovi*, *A. herklotsi*, *A. japonicus*, *A. longicephalus*, *A. macrorhynchus*, *A. platyrhynchus*) とされてきた (Nakabo, 2002)。しかし、沖縄舟状海盆および小笠原諸島東部沖から、本邦産既知種のいずれの特徴に当てはまらない標本が得られた。そこで本研究は、これらの標本について分類学的に検討した。

沖縄舟状海盆から得られた標本は 3 つのタイプに分けられた。タイプ 1 は螺旋弁数が少ないことなどで *A. fedorovi* および東シナ海から報告されていた *A. pinguis* に一致するが、*A. fedorovi* とは楕鱗の大きさなどにより識別され、*A. pinguis* に同定された。タイプ 2 は螺旋弁数が多く胸鰭先端が腹部の中間を越えないことの特徴が *A. gibbosus*, *A. japonicus* および *A. sinensis* に一致するが、*A. gibbosus* および *A. japonicus* とは第一背鰭の位置などが異なり、従来南シナ海から報告されていた *A. sinensis* に同定された。また、タイプ 3 は螺旋弁数などで *A. gibbosus*, *A. japonicus* および *A. sinensis* に一致するが、*A. sinensis* とは第一背鰭の位置などが異なり、*A. japonicus* とは鼻孔前吻長などが異なり、従来南シナ海から報告されていた *A. gibbosus* に同定された。Nakaya (1984) により *A. japonicus* として報告された沖縄舟状海盆産の標本も *A. gibbosus* であることが明らかになり、沖縄舟状海盆海域には *A. japonicus* は分布しないことが判明した。

小笠原沖から得られた標本は、全長 750 mm を超え、属内では大型であり、大きな頭部をもつことで特徴付けられる。本標本は螺旋弁数、成熟全長などの状態が、*A. manis*, *A. microps*, *A. profundorum* および *A. stenseni* に類似するが、幅広い口部をもつなどの特徴で、これらの種とは異なり、いずれの既知種とも一致しない。従って、本標本は本属の未記載種であると判断された。

以上のことから、*A. gibbosus*, *A. japonicus*, *A. sinensis* および *A. sp.* の 4 種が新たに日本産ヘラザメ属として認められ、日本産ヘラザメ属は合計 10 種となる。